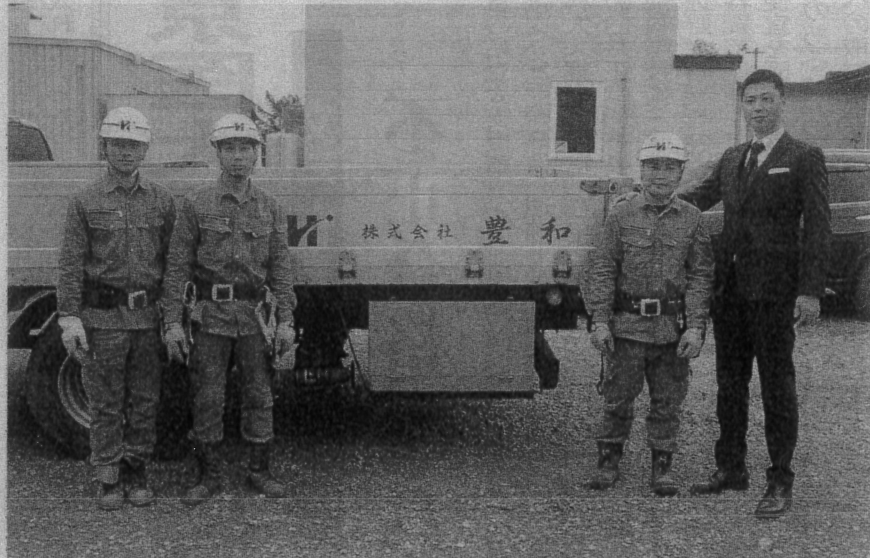


ベトナム人技能実習生

3人が現場で働く

豊和の苦小牧

苦小牧市沼ノ端でプラント設備の建設やメンテナンスなどを手掛ける豊和（豊澤佑介社長）で今春からベトナム人技能実習生が働いている。現在3人が建築技術の習得に全力で取り組んでいる。人材獲得と技術習得という互いのニーズもマッチした外国人技能実習生の受け入れが全国的に進み、道内各地の事業所でも広がりそうだ。



豊和の豊澤社長（右）と外国人技能実習生（左からクオンさん、タンさん、ドンさん）

に働いてくれている」と話し、日本の建築技術を学び習得しようという姿勢に「熱意がある」と高く評価する。

社員には半年ほどの時間をかけ、会社としての方針を説明。事前に理解を得るなど受け入れ体制づくりにも配慮したという。

働き始めた当初は日本語の会話や仕事道具の名前を覚える所からスタート。わずか3カ月ほどだが、簡単な日本語の会話は日本語で行うほど上達した。クオンさんは「日本は現場の安全意識が高く、とても勉強になる。いつかベトナムに戻り、日本で得た技術を生かしたい」と話す。

豊澤社長は「建設業界で外国人労働者の受け入れが今後ますます増えていくだろう」と指摘。「日本人だけという固定概念を変えないといけない」と話す。出身国によって日本国内での資格取得が難しいケースもあるが、「外国人労働者が高度な技術を身に付けられるようになってほしい」と今後の受け皿の整いに期待を込めた。

同社で働いているのは、ベトナム人のチャン・バン・タンさん（31）、ダン・ファン・ドンさん（28）、ブイ・ズイ・クオンさん（26）の3人。豊澤社長が昨年8月にベトナムを訪れ、応募のあった15人の中から熱意や人柄などを見ながら選考。3人を研修生として受け入れることを決めた。

外国人技能実習生受入団体が仲介する形で今年4月に来日。上川管内愛別町で研修を受けた後、同下旬から同社で働き始めた。現在の主な仕事は溶接作業などで待遇面は他の従業員とほぼ同じ。約20人の社員とは簡単な日常会話でコミュニケーションを取るなど、人間関係も良好という。

豊澤社長は外国人研修生の印象について「とても真面目